

# 万協フロー YPEKR 施工要領書

## ◆◆◆はじめに◆◆◆

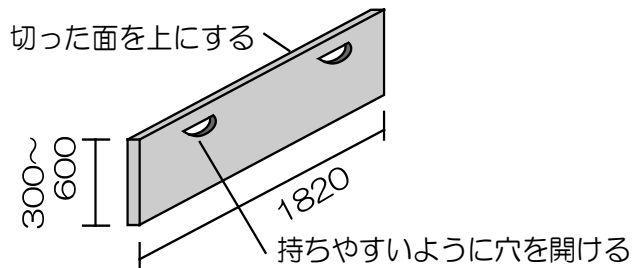
このたびは弊社二重床をご採用いただきありがとうございます。  
製品の特性を十分に生かし、安全で美しい仕上がりに施工して頂くために  
本書をよく読み、正しくお取り扱いいただきますようお願いいたします。

### 施工工具一覧

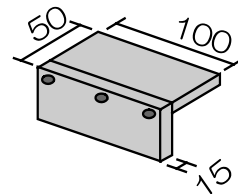
万協フロー（床下地）の施工には以下の施工工具が必要となります。

- 電動ノコギリ（丸ノコ）
- インパクトドライバー（ビス留めの場合）
- 釘打機（コンプレッサー）（釘留めの場合）
- 水平器
- 定規（下図参照）※1
- ほうき
- ドライバー（+）
- 水糸
- カッター
- スケール
- すきまゲージ（下図参照）※2
- ちりとり

※1 定規  
床パネルを半分に切って作ります。  
（真物でも可）



※2 すきまゲージ  
厚さ15mmの合板又は  
木材で4個以上作ります。



定規・すきまゲージは、床の水平レベルの調整及び床パネル間の目地幅を一定にするために必要なものとなります。

# 1 製品仕様

## ① パーティクルボード(以下、パーティとする)

(厚さ)20mm×(幅)600mm×(長さ)1820mm

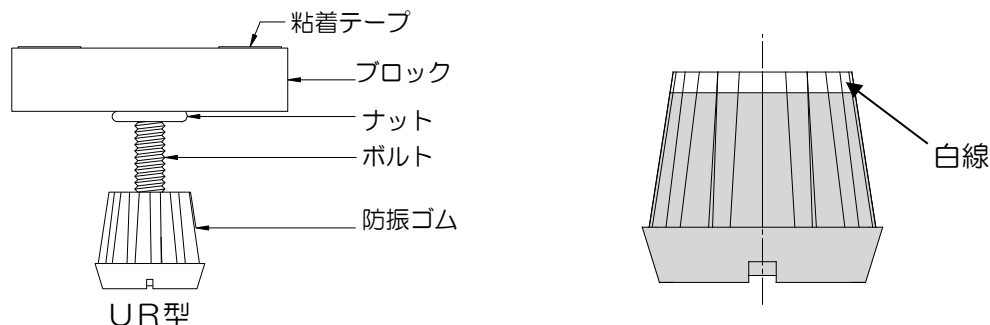
(パーティクルボード JIS A 5908 18タイプMR1 (M) F☆☆☆☆)

『水がかりの範囲』となる床パネルは、パラフィン加工した床パネルを使用します。

**確認事項** 請負者への引渡し時の質量下限値：14.4 kg/枚 管理基準値：15.2 kg/枚  
『水がかりの範囲』は、便所、洗面脱衣室、洗濯機置き場。台所の流し台、調理台及びコンロ台前面及び側面 1m以内。現場で切断する場合は、切断した小口にパラフィンを塗布する等の有効な防湿処置を行う。

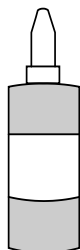
**注意** 床パネルは濡らさないでください。また、湿気の多い場所に長期間放置しないでください。直射日光の当たる場所に長時間放置しないでください。床パネルを仮置き・養生する際は、(端太角 3 本以上を床パネル短手方向に平行に敷く) の上に合板等を敷いてから養生し、反りの防止と材料が濡れないように管理してください。

## ② 支持脚の構成



**確認事項** 形状はYPE型支持脚と同じですが、防振ゴムの硬度は  $70^{\circ} \pm 5^{\circ}$  です。通常のYPE支持脚とは、ゴム硬度が異なりますので、注意してください。防振ゴムに白線のマーキングが有ることを確認してください。URの仕上げ高さの基準は、基準階でH100~140mm(1階・水廻りは100~240mm)を標準としています。それ以外の高さも対応可能ですが、監督員と協議して決めてください。

## ③ 接着剤



中ブタを取り、ノズルの先端をカッターで切って使用します。冬季など低温度、低湿度のときは硬化しにくい場合があります。ラベルに記載されている注意事項をご確認の上、使用してください。

**注意** 使用の際は換気をよくしてください。  
誤って目に入れたり、飲み込んだ場合、直ちに医師の診断を受けてください。

**注意** 標準入数の半数以上のご注文の場合、接着剤が同梱されます。

④ ビスおよび釘（別売 市販品）

- ・床パネルと支持脚の固定には、ビス又は釘を使用します。



コーススレッド半ねじフレキ付      スクリューネイル  
約(φ)4×長さ38mm      約(φ)2×長さ38mm

※UR-80は（長さ）32mmを使用します。

- ・捨貼り合板用（合板厚さ12mm）

種類：スクリュー釘（胴部径1.8mm以上、長さ32mm）

標準釘本数：短辺方向5列、長辺方向8列（900×1800の場合）

⑤ 制振シート

（厚さ）6mm×（幅）500mm×（長さ）1000mm

⑥ 塩ビ系シート

（厚さ）1.8mm×（幅）900mm以上×（長さ）200mm以上

⑦ 捨貼り合板 JAS      構造用合板 1類2級      B-C（広葉樹）

C-D（針葉樹）

D-D（針葉樹）

JAS      普通合板      2類2等

水がかりは      普通合板      1類2等（広葉樹）

C-D（針葉樹）

寸法：1820mm×910mm×厚さ12mm

⑧ グラスウール（万協指定のものをご使用下さい。）

10kg/m<sup>3</sup>（厚）50mm

## 2

## 施工手順

施工をはじめる前に以下の作業を行います。

- 床スラブ面にゴミ、埃がないように清掃します。
- 床高に合った支持脚か確認します。
- 床パネルの枚数を確認します。
- 水上部や配管交差部で床パネルに当たらないか、床下配管の位置を確認します。
- フローリングの貼り方向を確認します。  
(床パネルを張る方向はフローリングと直交にします。)

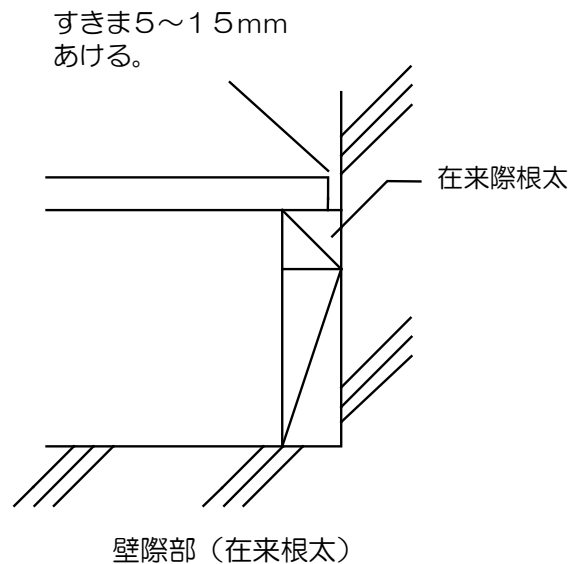
**注意** 床パネルの目地にビスがあたると、床鳴りの原因となります。  
スラブが濡れている場所、水たまりがある場所は、乾かしてから施工してください。

### 1. 壁際の施工（在来際根太）

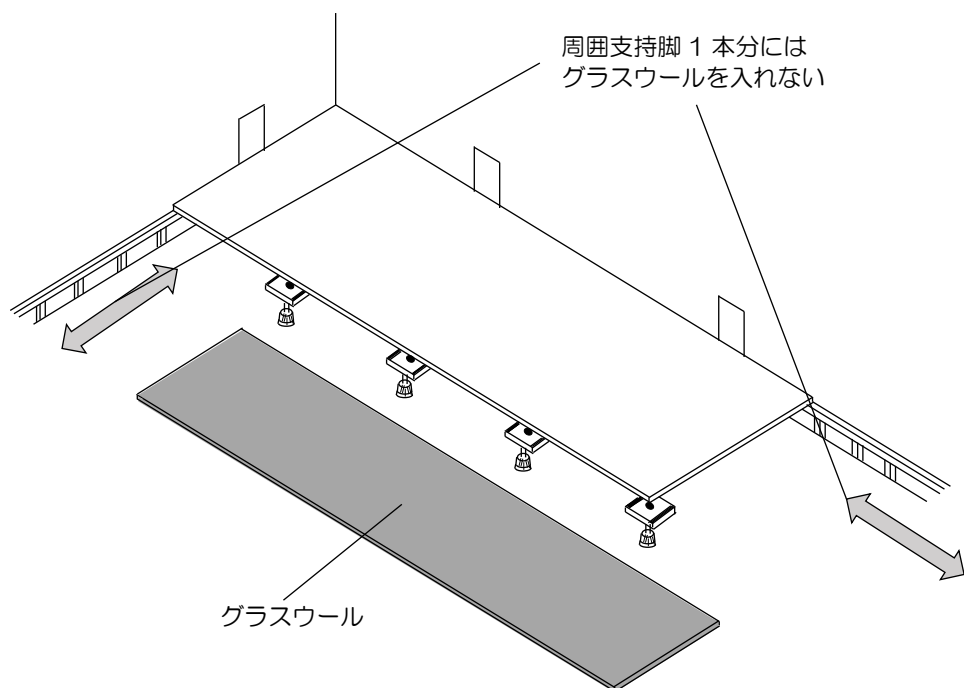
特別な施工は必要ありません。際根太が正しく施工されているか確認します。

(高さ・束ピッチ)。

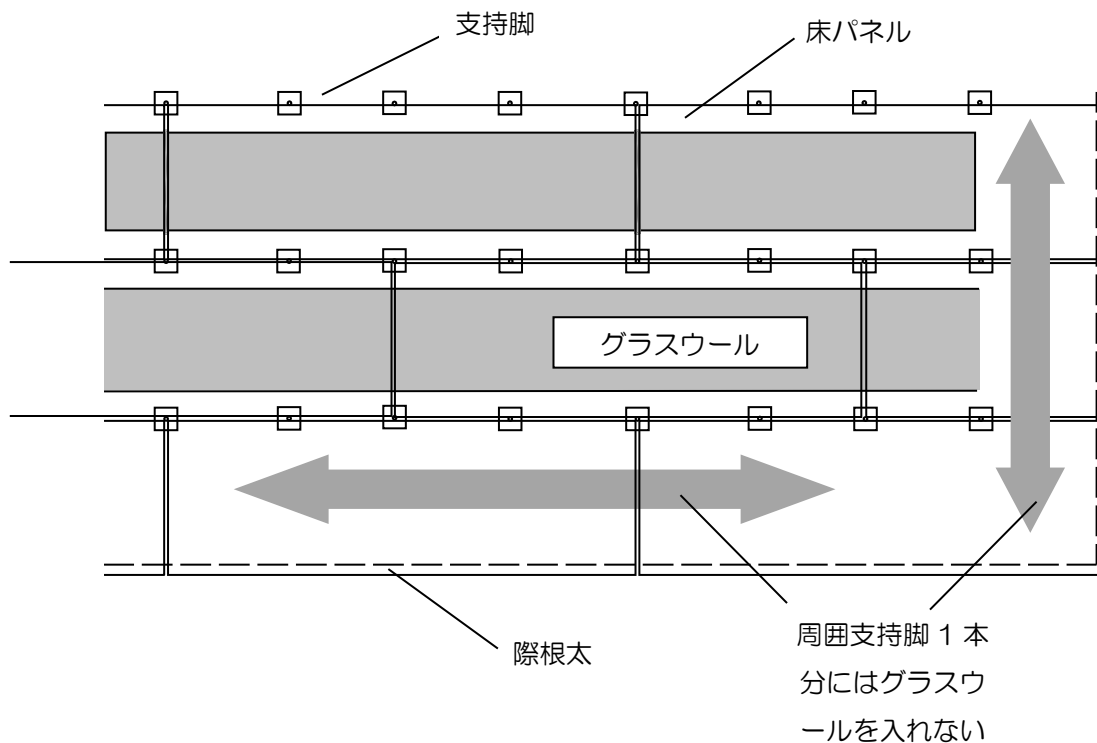
床パネルは、根太へのかかり代 20mm以上に注意し、ビス又は釘で固定します。



## 2. グラスウールの敷き込み



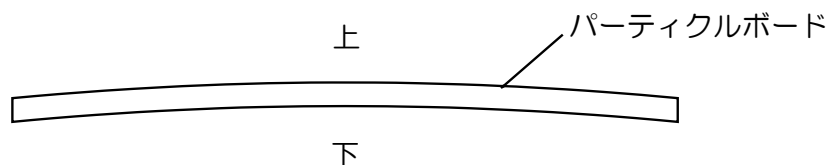
グラスウールは下図のように並べます。  
グラスウールは床パネルのおおむね中央に配置して下さい。  
床パネルと同時進行で施工します。



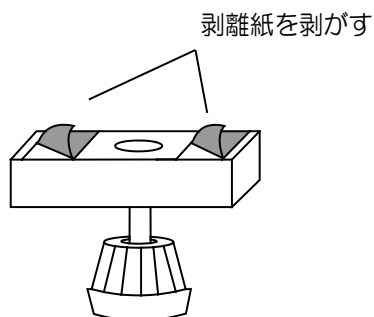
**注意** 空気層の高さに関係なく、グラスウールは厚50mmを使用します。  
重ねる必要はありません。

### 3. 床パネルの敷設

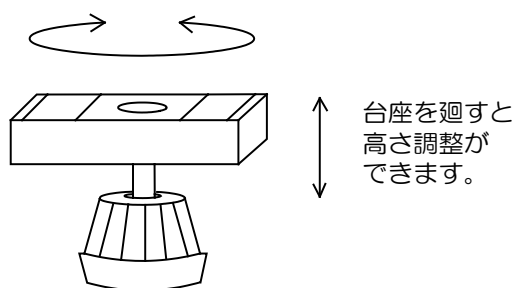
- ① 床パネルの反りを確認します。  
パネルに反りがある場合、膨らんでいる面が上になるように施工します。



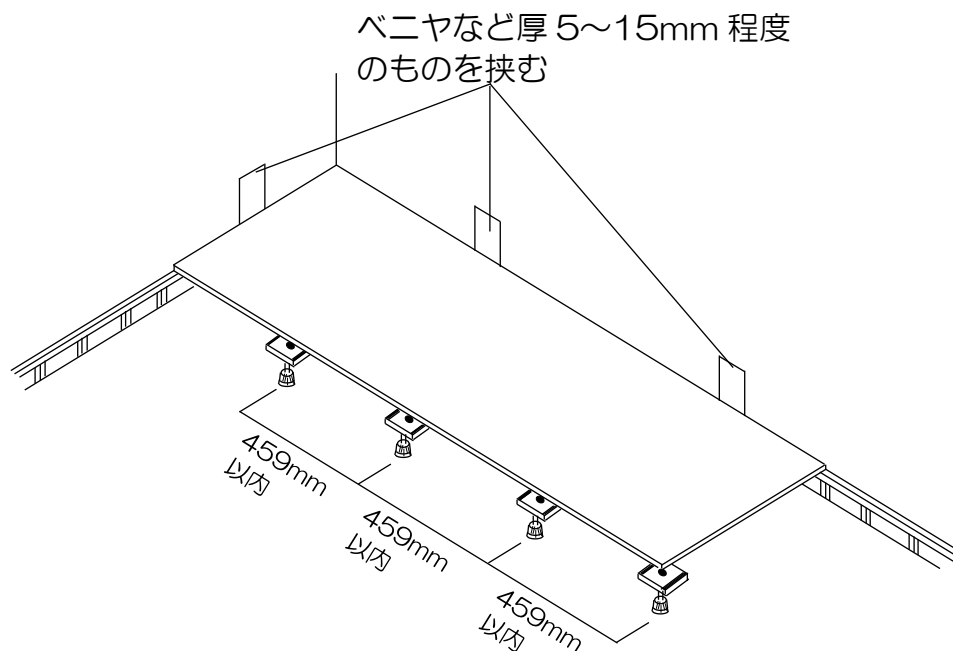
- ② 支持脚の剥離紙を剥がします。



- ③ 台座を廻し支持脚を適当な高さに調整します。



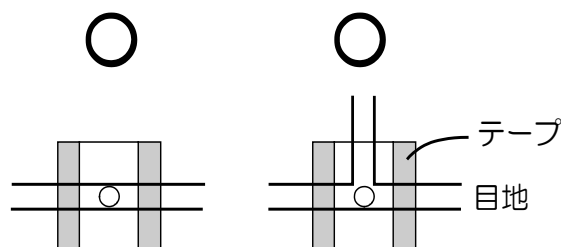
- ④ 支持脚は約 455mm（459mmピッチ以内）で床パネルに貼り付けます。



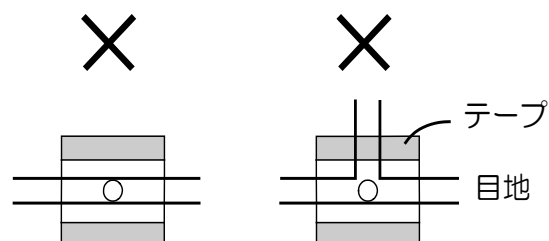
台座には、向きがあります。

床パネルの側面と台座のテープが直交する向きで支持脚を床パネルに取り付けてください。床パネルの側面と台座のテープが平行になる向きで取り付けると、粘着力が低くなり、台座と床パネルの間に隙間が空きやすくなり、床鳴りの原因となることがありますので注意が必要です。

台座取り付け方向 よい例

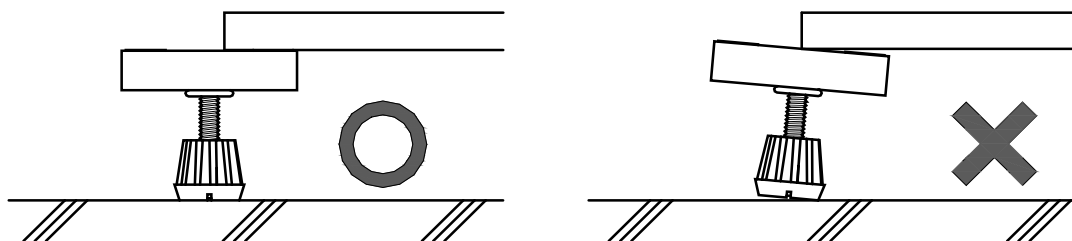


台座取り付け方向 わるい例

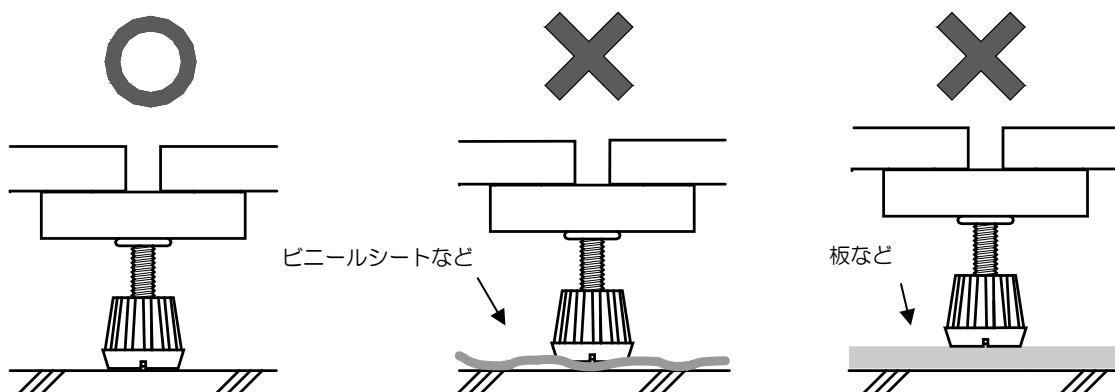


**注意** 支持脚は床パネルにしっかり貼り付けてください。台座と床パネルの間に隙間があると床鳴りの原因になります。

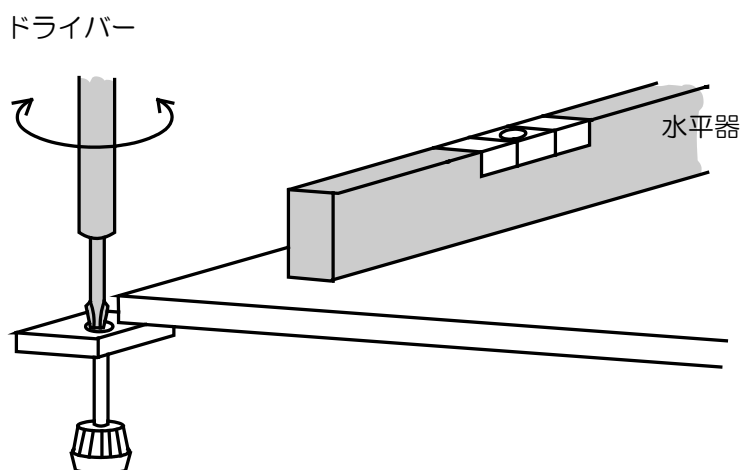
床パネルと台座の間に隙間が開かないように注意する



**注意** 支持脚の下には、物をはさまないでください。床鳴りなどの原因になることがあります。支持脚は、直接床スラブに接するようにします。



⑤ 床パネルを1枚張るごとに、水平器またはレーザー水平器で床パネルを水平にします。



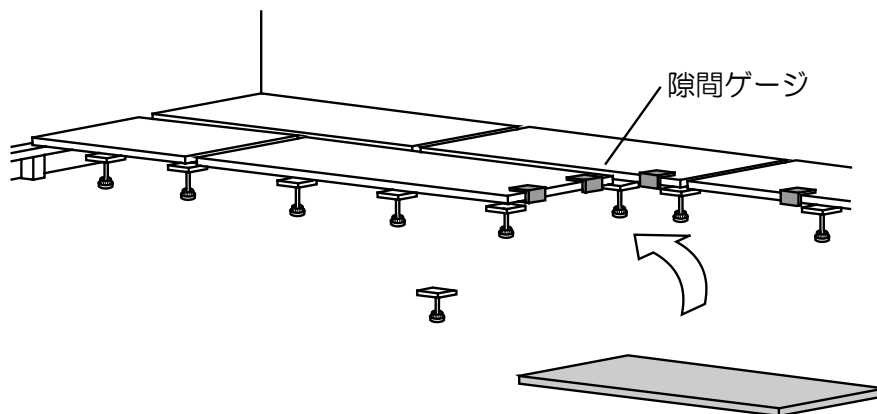
**注意** 製造工程上、ボルト頭部の十字溝に一部変形がみられるものがありますが、不良品ではありません。

**注意** インパクトドライバーや電動工具等でレベル調整を行うと、過度な負荷がかかり、ネジ山がつぶれる恐れがありますのでご注意ください。

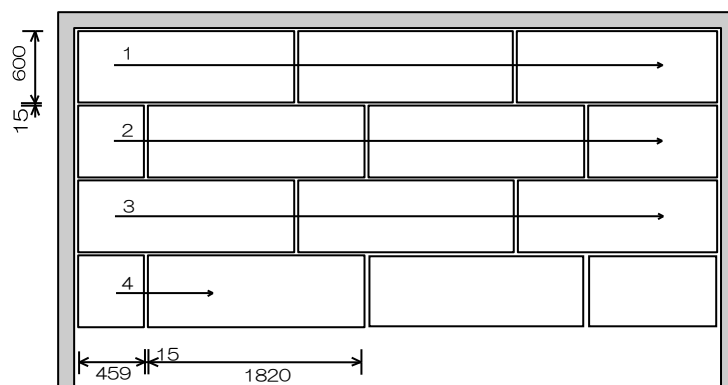
⑥ 床パネルはレンガ張りとし、床パネル同士の目地は約15mmあけます。このとき、隙間ゲー



ジを用いると、早く正確に施工できます。

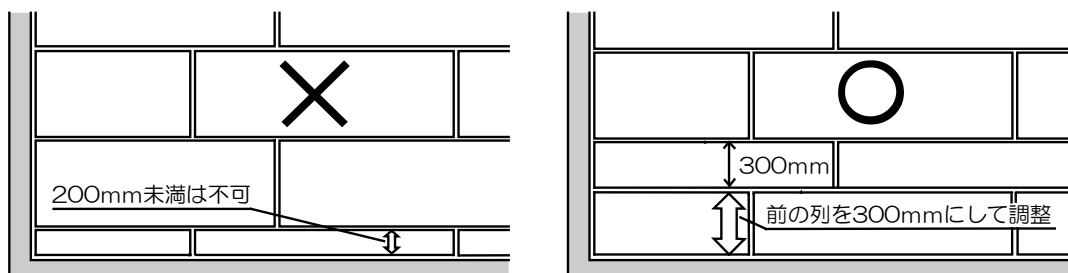


床パネルを張る順番は、下図（矢印）の通りです。張り方はレンガ張りです。



レンガ張り

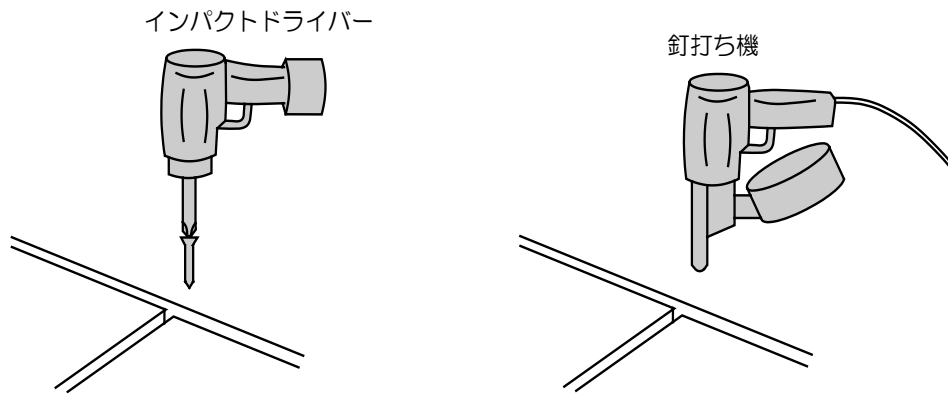
**注意** 床パネルの最小寸法は 200mm以上とし、張り終いで、床パネルの幅が 200mm未満になる場合は、1 枚手前の床パネルの幅を 300mmなどとし、張り終いが 200mm未満とならないように調整してください。



**注意** 床パネルの表裏面に、キズ（ノコギリの切れ目など）のあるものは、使用しないでください。

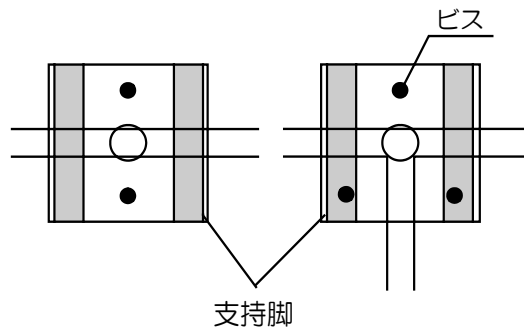
#### 4. 床パネルの固定

床パネル上からビス又は釘を打ち、支持脚と床パネルを固定します。

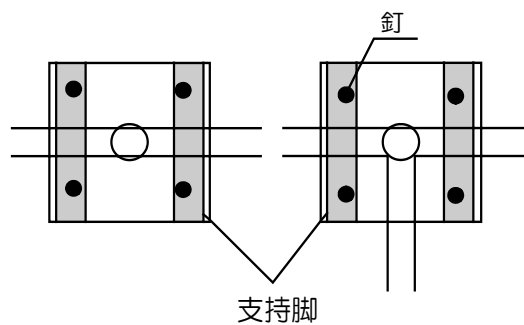


床パネルと支持脚の固定は釘（スクリーネイル 38mm）又はビス（コーススレッド 38mm 半ねじタイプ）を使用します。

釘を使用する場合は支持脚 1 本に対して 4 箇所、ビスを使用する場合は 2~3 箇所、固定します。

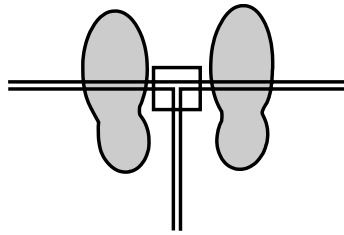


ビスの場合（コーススレッド半ねじタイプ）による固定の場合

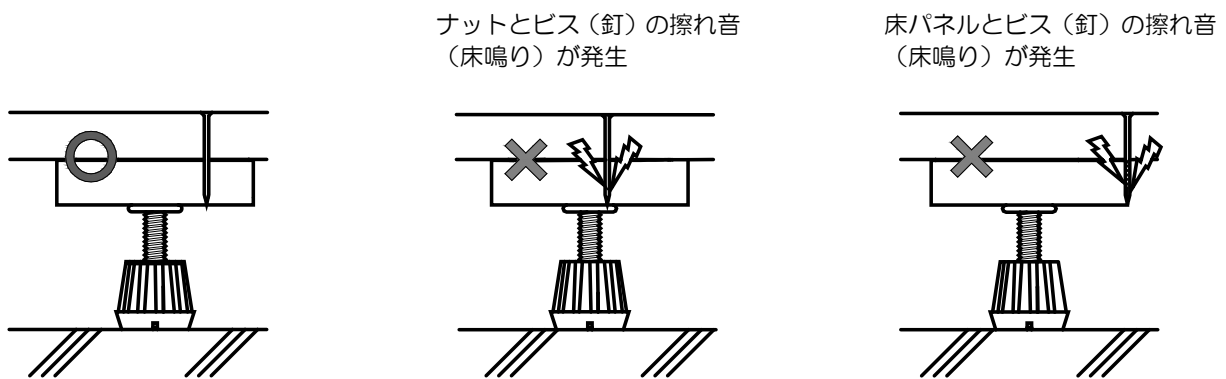


釘の場合（スクリーネイル）による固定の場合

支持脚を固定する場合、均等に体重をかけ床パネルと支持脚の間に隙間が生じないように注意して固定します。



釘又はビスが支持脚頭部の台座から外れた場合や、ナット部分の金属に触れた場合には床鳴りが発生するので十分注意して施工します。



壁際は約300mmピッチで釘を打ちます。

## 5. 床水平レベルの再調整

### 水系・定規を用いて水平レベルを調整する場合

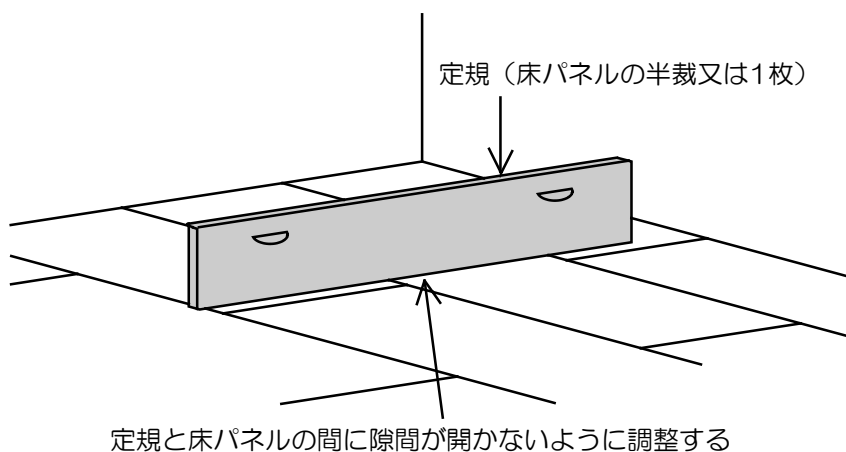
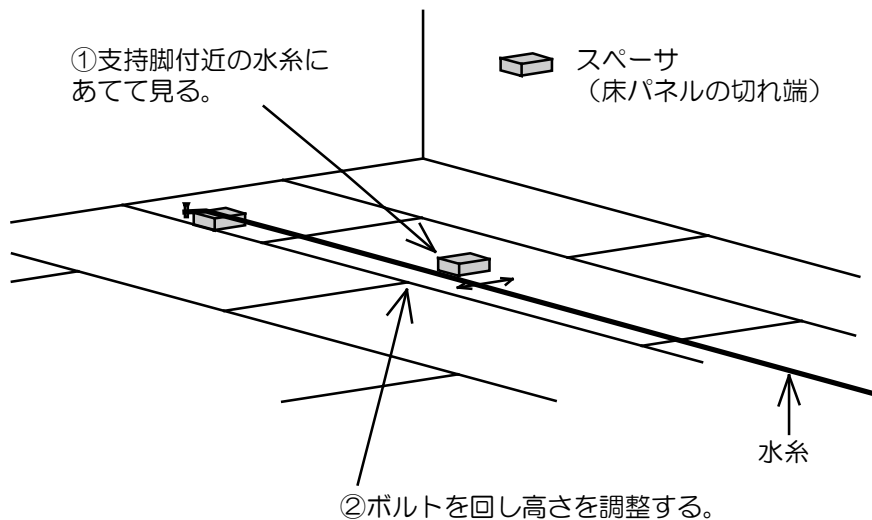
#### • 長辺方向のレベル調整

床パネルを3列しきこむ毎に、水系又はレーザーレベラーを使用し、床パネルの長辺方向のレベルを調整します。

水系は床パネルの切れ端（スペーサ：同じ高さになるように使用）を挟んで強く張り、別のスペーサを水系と床パネルの間に置き、スペーサと水系が軽く触れる高さに支持脚を調整します。このとき調整している床パネルの上に乗って作業を行うと、床が沈み、正確にレベル調整ができないので他の床パネルの上に乗って作業を行います。

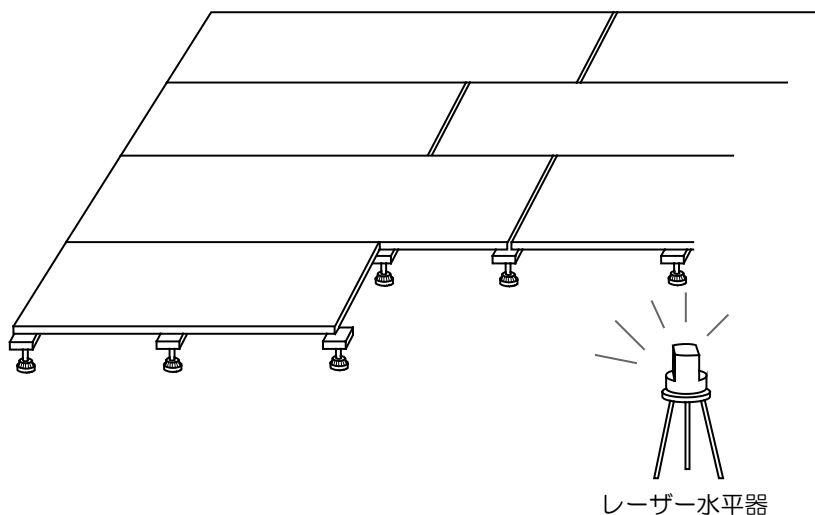
#### • 短辺方向のレベル調整

短辺方向は、定規（床パネル）を使い、定規の重量を掛けた状態でレベル調整します。定規の重量が均等にかかることにより、レベル調整が確実にできます。

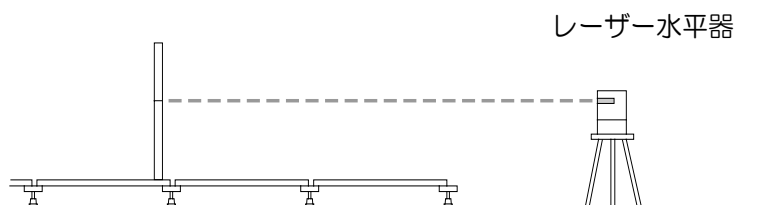


## レーザー水平器を用いて水平レベルを調整する場合

レーザー水平器を設置します。



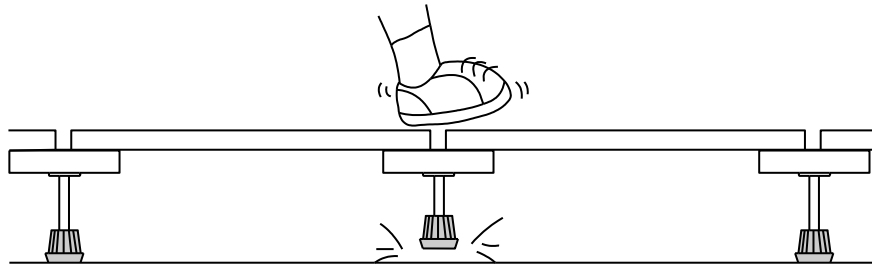
かね尺等を支持脚上に立て、ドライバーでボルトを回し、同じ位置にレーザーがあたるように高さを調整します。



## 6. 床全体のレベル点検

床のレベル調整がすべて終わった時点で、床全体を歩行し、支持脚の浮きが無いか必ず確認します。浮きがあった場合は、レベルを確認しながらドライバーで支持脚ボルトを回転させ調整します。支持脚の上を歩いて他より柔らかく感じたら、浮いている可能性があるため、必ず確認します。このとき、床パネルの水平を保つようにしてください。

浮きの確認時にビス又は釘の固定についても同時に確認(目視)し、不備のないようにします。



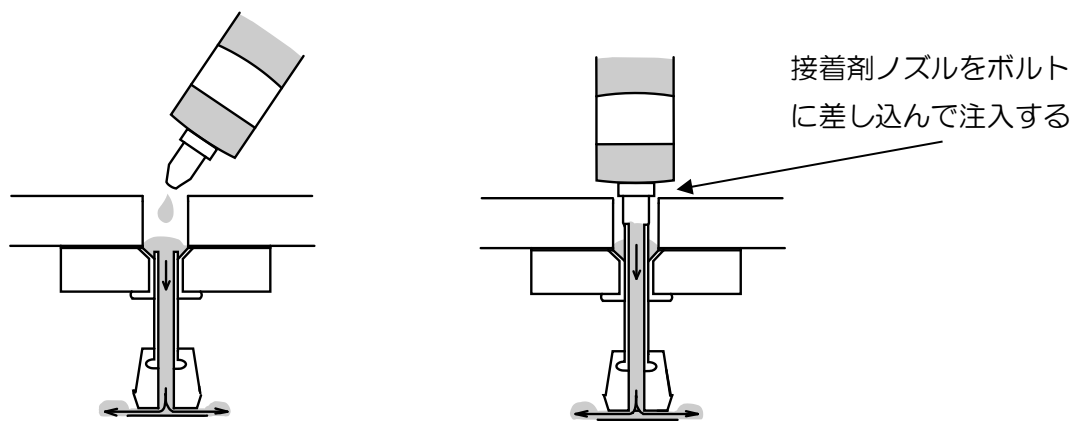
支持脚の上を歩いて、他よりやわらかく感じたら、浮いている可能性があります。

## 7. 接着剤の注入

床全体のレベル調整が終了したら、一括してすべての支持脚に接着剤を注入します。必ず万協フロアー指定の接着剤 BA (400 又は 200) を使用します。

ボルトが台座ブロックより上に出ている場合は、ボルト頭部に接着剤ノズルを挿入して注入するか、防振ゴムの底部に接着剤を付けながら施工し、台座とボルト及び床スラブと支持脚を接着します。接着剤が硬化するまでには 1~2 日くらいかかります。この間、床上に重量物を置いたり、歩いたりしないでください。

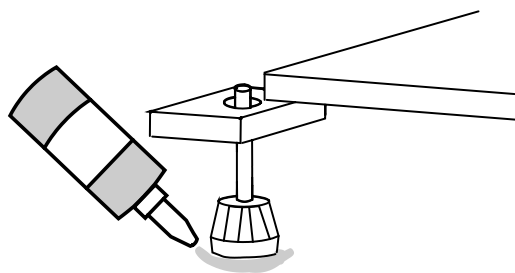
冬季など接着剤が流動化しにくくなった場合は温めて使用してください。



ボルトが台座より上に出ている場合

ボルトが台座より上に出ている場合

**注意** 防振ゴムの底部に接着剤を付けた箇所は、その日のうちに「レベル調整」、「ボルト頭部への接着剤注入」を済ませてください。



注入量の目安は	UR-	60 ~	235	3ml	
		UR-	250 ~	670	5ml
		UR-	730 ~	1090	7ml

です。（※ゴムの周囲に接着剤が出ていることを確認します。）

**注意** ラベルに記載されている注意事項を確認してから使用してください。  
未開封のものは冷暗所に保管してください。  
子供の手の届くところには置かないでください。  
誤って目や口に入った場合には、速やかに医師の診断を受けてください。

## 8. 制振シートの敷設

制振シートは、おおむねすきまなく並べ、目地はパーチの目地と合わないよう 100mm 以上離します。

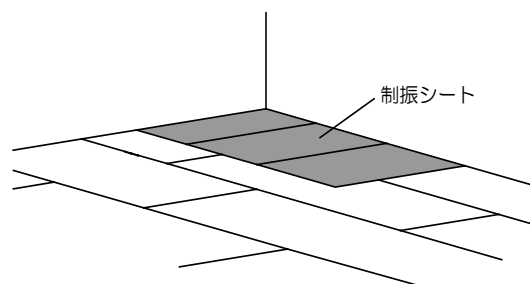
制振シートを施工する場合は、フローリング留付け用釘等が誤ってパーチの目地に打たれないように、目地位置をマーキングします。

最小寸法は短辺・長辺共 200mm 以上とします。

壁際は 5～15mm すきまをあけます。

フローリングの張り始め、張り仕舞い位置の制振シートを除き、置くだけの施工とします。

フローリングの張り始め、張り仕舞い位置の制振シートは、釘又はタッカーを用いて施工します。



## 9. 塩ビ系シートの施工

1.8mm 厚の塩ビ系シートの四隅を薄手の両面テープで固定します。

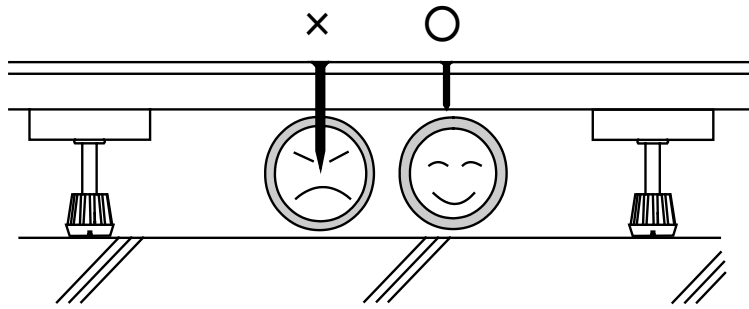
壁際は 5～15mm の隙間をあけます。

塩ビ系シートの最小寸法は短辺 200mm 以上、長辺 90mm 以上とします。

## 10. 捨貼り合板の施工

- 捨貼り合板は床パネルと直交するように貼ります。
- 捨貼り合板の目地は床パネルの目地から100mm以上ずらします。
- 壁際は5～15mm隙間をあけます。

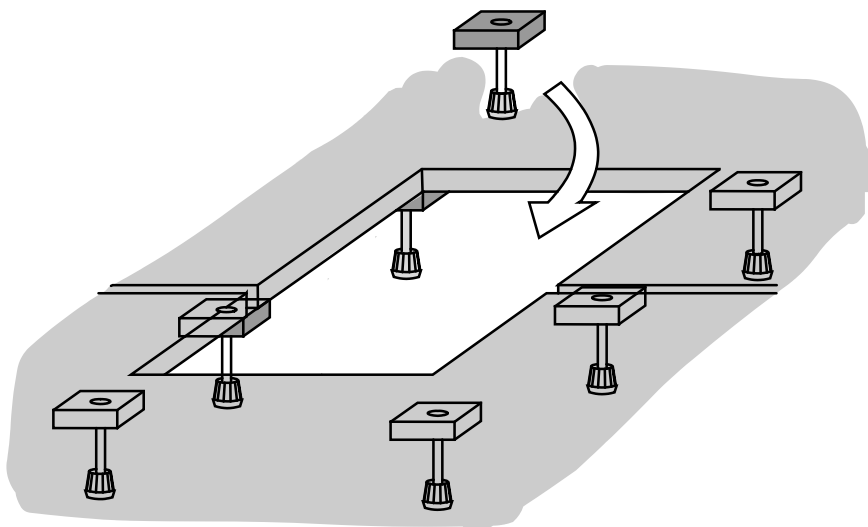
**注意** 床下配管などを傷つける恐れがありますので、床パネルを突抜けない長さの釘をご使用ください。



## 3 その他

### 1. 床に開口部など穴を空ける場合の処置

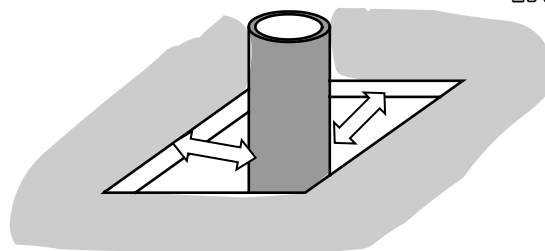
- 床パネルに床下収納や点検口などの開口をあける場合は、床の強度が低下するため開口部を支持脚で補強します。
- 補強は床パネル接合部および開口部の四隅とし、支持脚の間隔が459mmを超える場合には中間に支持脚を追加します。





- 床下配管の立ち上がり部がある場合には、配管と床パネルを 20mm以上離します。床パネルと配管が接触すると、床鳴りの原因となります。

配管と床パネルは 20mm以上離す



## 2. その他の注意事項

### ①水を使用する場合

- 二重床下地の上で、水を使用する作業を行う場合は、必ずビニールシート養生を行ってください。

### ②資材の仮置き

- 二重床下地の上に資材を仮置きする場合は、1箇所にもとめず分散させ、静かに置いてください。(目安としては200kg/m<sup>2</sup>まで)
- まとめて仮置きした場合、床のたわみが戻るまで時間がかかり、仕上げ材の施工に支障が出る恐れがあります。

### ③その他

- 二重床の上は、搬入経路等で使用しないでください。
- 二重床施工後、床上に強い衝撃を加えないでください。建築資材の落下などにより、パーチが割れる場合があります。
- 風雨にさらされる場所への施工は、避けてください。雨等により床下地が濡れた場合、高湿度状態が連続した場合には床下地が十分に乾燥するのを待ち状態を確認してから仕上げ材の施工等を行ってください。(床下地の補修、再施工が必要となる場合があります。)
- 床パネルを固定する場合、床下配管などを傷付ける恐れがありますので、床パネルを突抜けない長さのビスあるいは釘等をご使用ください。
- 施工要領書に記載の無い施工を行う場合は、事前にご相談ください。
- 事業主様によっては、本施工要領書とは別に規定を設けている場合がありますので、ご確認の上、施工をおこなうようご注意ください。
- スラブから放出される水分が多い場合や漏水等により二重床下の空間で多湿状態(※1)が続くと、床材の反り、突き上げなどの原因になりますのでご注意ください。
- 自然現象・周辺環境等(※2)の不可抗力に起因する結露、腐食、反り、割れ又はその他の不具合による商品の交換等には対応いたしかねます。

(※1) 湿度 65%以上になるとカビが生えやすい環境となり、湿度 90%を超えると数日でカビが発生する可能性があります。

(※2) 火災・地震・水害・落雷などの天災地変や公害・塩害・ガス害や異常な高温・低温・多湿・過乾燥などの周辺環境

- 施工途中あるいは施工後の資材の搬入・落下等による床下地表面に傷に関しては本仕様に限らず、本来未然に防止すべきものであります。入居者に配慮した現場管理をお願いします。

「仕様は予告なく変更することがあります。」